

# 麦作情報 第1号

平成28年11月7日

J A むなかた

北筑前普及指導センター

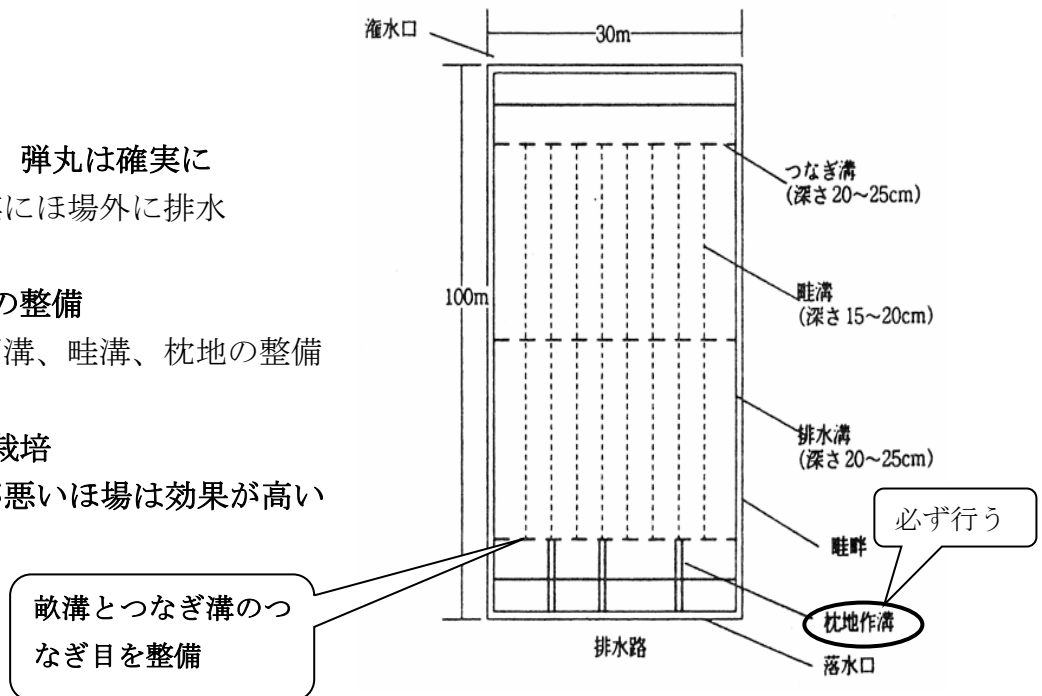
麦の播種時期になりました。29年産麦は、「基本技術の励行」を合言葉に、部会員全員で収量及び品質向上に取り組みましょう。

## 1 播種前の排水対策と土づくり

### (1) 排水対策（地表排水と地下排水の組み合わせ）

- ア 地表排水は、周囲溝（額縁排水）と、うね溝（圃場内排水溝）が基本
- イ 地下排水は、本暗渠の施工が基本で、補助として弾丸暗渠や心土破砕（サブソイラ等）を施工

- ◎ 暗きよ、弾丸は確実に  
→確実にほ場外に排水
- ◎ 排水溝の整備  
→周囲溝、畦溝、枕地の整備
- ◎ 畝立て栽培  
→排水が悪い場合は効果が高い



### (2) 土壌の酸度矯正

麦は酸性土壌を嫌います。適正な土壌のpHは、6.0~7.0です。特に大麦はpH5.5以下で生育障害が発生します。pHが低い場合は、ミネラルGの散布と合わせ、炭酸苦土石灰、消石灰等の石灰質資材による酸度矯正を行ってください。

### (3) 有機物の施用

- ア 稲わらは焼却せずに全量すき込みましょう。
- イ 堆肥は10a 当たり1~2t 施用しましょう。

## 2 施肥（基肥）

いずれの麦類も基肥はベスト化成444を40kg/10a 施用しましょう。

※大豆後作（大豆が良くできているほ場）の麦については、基肥は基準の半量を目安にしてください。

※前年に大麦でホウ素欠乏による不稔穂が発生したほ場では、微量要素肥料FTEを4kg/10a、基肥と同時に施用しましょう。

## 3 播種 **適期内に播種を終えるようにしましょう。**

(1) 播種適期：小麦 11月20日～11月30日（晩播限界12/15）

大麦 11月25日～12月5日（晩播限界12/20）

(2) 播種量（10a当たり）

品種名	11月15～20日	11/20～25	11/25～30	12/1～10
しゅんれい	—	5～6kg	6～7kg	8～10kg
チクゴイズミ	5～6kg		6～7kg	(12/1～5) 8～9kg

(3) 種子消毒：トリフミン水和剤0.5%粉衣(種子10kgに薬剤50g)

※小麦でシロトビムシ類による被害が予想されるほ場は、トリフミン水和剤0.5%粉衣に加えて、アドマイヤー水和剤0.15%粉衣(種子10kgに薬剤15g)を行ってください。**効果安定のため薬量を守って粉衣してください。**

## 4 雑草防除（10a当たり）

除草剤名	薬量	散布液量	使用時期
クリアターン乳剤	500～700mℓ	70～100ℓ	播種直後(雑草発生前)
ボクサー	400～500mℓ	70～100ℓ	播種後～麦2葉期まで
リベレーターフロアブル	60～80mℓ	100ℓ	播種後～麦3葉期まで

※除草剤散布の際、土壌が乾き過ぎていたり、土塊が大きい場合は、希釈水量を多くした方が効果が安定します。

※播種前雑草が多いほ場では、ラウンドアップマックスロードまたはプリグロックスLを農薬使用基準に従って散布しましょう。

※従来の除草剤(クリアターンやガレス等)に対する抵抗性雑草(スズメタネウ)の発生が問題となりつつあります。**近年、播種後に雑草の発生が目立つ場合は、抵抗性雑草が発生している可能性がありますので、除草剤をボクサーまたはリベレーターフロアブルに変更しましょう。**

※ボクサーは、麦2葉期まで使用できますが、麦の播種後早めに散布した方が効果は高くなります。